



一人だけの駅

楊 浩
YANG HAO

近年、都市化はどんどん加速していき、新しい景色が広がっています。でも、時には昔のまま変わらない景色が、普段とは違う特別な景色と感ずることができるかもしれません。

私は、中国であるニュースを見ました。すごく温情を感じ、日本へ行ってみたいという気持ちが強くなりました。

北海道のある鉄道会社が、過疎化などで利用者がほとんど居ない路線を、廃止する事を決定しました。しかし、この路線にある無人駅から、毎日通学している一人の女子高生がいました。その鉄道会社は、その女子高生が卒業するまで路線を残す事にしました。

その路線、その駅は、一人だけのための駅になりました。

赤字の中、路線を残すという事に、鉄道会社の負担は、少し考えただけでも大きい事がわかります。簡単な事ではないのです。鉄道会社の中で、「資源を無駄に浪費する事だ」「納税者のお金を浪費する事だ」という様々な意見が出たと思います。とても大変で、難しい決断だったと思います。しかし、鉄道会社のやり方は、本当に個人の尊重と配慮を表しているのでしょうか。人間性の温かさと希望をしっかりと感じられます。

今は廃線となったこの駅には、まだその温かさを感じることができます。それは、女子高生や地元の住人、今までそこで鉄道を運営してい

た鉄道会社の人間の温かさがあり、実現できたものだと感じました。

みんなが、希望をのせて出発したそれぞれの駅を忘れないように、家を離れた人が故郷を忘れないように、永遠にその温かさを覚えていきます。

ここ数年、中国は急激に発展しています。ただ、発展は諸刃の剣です。生活が便利になり、豊かになっていると同時に、環境や自然を破壊する事もさけられないでしょう。人の上に立つ人が、これまでの事とこれからの事を考えた上で、経済と心を豊かにするような政策を行ってほしいと思います。

私が飛行機から降りた時、青い空と新鮮な空気に、すごく感動しました。

そして、そこで耳にしたのは柔らかい日本語で、目にしたのはいつも微笑む日本人でした。話しが分からない時には、ゆっくり話してくれます。休みの日には、バーベキューなどに誘ってくれます。また、様々な国の文化や信仰を問わず受け入れています。このような優しい環境に囲まれて過ごしていくうちに、外国で暮らすという不安が無くなりました。

中国に帰っても、自分が日本で身を持って感じた温かさを大切に、自分の周りの人々に広めていきたいと思います。

一人だけの駅は皆の心の温かさでできたものなのです。